

参考文献とリンク先

- [ABCC17] アドバンスド・ビジネス創造協会、「日本企業の活性化が日本の繁栄をもたらす – 発想を変えてもっと元気を出そう-」(プレゼンテーション資料)、2017年。
- [ACM09] Integrated Software & Systems Engineering Curriculum (iSSEc) Project, “Graduate Software Engineering 2009 (GSWE2009) Curriculum Guidelines for Graduate Degree Programs in Software Engineering”, September 30, 2009.
この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017年 (平成 29年) 2月 28日)。
<https://www.acm.org/binaries/content/assets/education/gsew2009.pdf>
- [ACM14] ACM, “Curricula Recommendations,”
この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017年 (平成 29年) 2月 28日)。
<http://www.acm.org/education/curricula-recommendations>
- [ACM15] IEEE Computer Society, Association for Computing Machinery, “Software Engineering 2014 Curriculum Guidelines for Undergraduate Degree Programs in Software Engineering A Volume of the Computing Curricula Series,” 23 February 2015.
この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017年 (平成 29年) 2月 28日)。
<https://www.acm.org/education/se2014.pdf>
- [AKI04] 秋本芳伸、岡田泰子著、「若手 SE のための要求仕様のまとめ方」、(株) ディー・アート、2004年。
- [ARN00] Ken Arnold 他著、柴田芳樹訳、「プログラミング言語 Java 第3版」、ピアソン・エデュケーション、2001年。
この本の原書は、以下のものである。
Ken Arnold, James Gosling, David Holmes, “The Java Programming Language, Third Edition,” Addison Wesley Longman, 2000.
- [BAK73] F. T. Baker, H. D. Mills, “Chief Programmer Team,” Datamation, Vol.19, No. 12, (December 1973), pp58-61.
このペーパーは、ACM のデジタル・ライブラリ (<http://portal.acm.org/portal.cfm>) からダウンロードできる。(ただし、ACM のメンバーであることが必要。)
- [BAS91] Victor R. Basili and John Musa, “The Future Engineering of Software: A Management Perspective,” IEEE Computer Magazine, Vol. 24, No. 9, pp 90-96, September, 1991.
この論文は次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017年 (平成 29年) 1月 3日)。
<http://www.cs.umd.edu/projects/SoftEng/ESEG/papers/82.43.pdf>
- [BAS92] V. Basili, “Software Modeling and Measurement: The Goal/Question/Metric Paradigm,” University of Maryland, CS-TR-2956, UMIACS-TR-92-96, September 1992.
この論文は次の URL からダウンロードできる。(確認日: 2017年 (平成 29年) 1月 6日)
<http://www.cs.umd.edu/~basili/publications/technical/T75.pdf>
- [BAU93] Friedrich L. Bauer, “Foreword,” from “Software Engineering – A European Perspective,” R. H. Thayler and A. D. McGettrick, eds, IEEE, 1993.

- [BEC00] ケント・ベック著、長瀬嘉秀監訳、永田渉他訳、「XP エクストリーム・プログラミング入門 ソフトウェア開発の究極の手法」、ピアソン・エデュケーション、2000年。
この本の原書は、以下のものである。
Kent Beck, “Extreme Programming Explained : Embrace Change,” Pearson Education, 2000.
またこの本には第2版が出ていて、その日本語訳と原書は以下のものである。
ケント・ベック著、長瀬嘉秀監訳、(株) テクノロジックアート訳、「XP エクストリーム・プログラミング入門 変化を受け入れる 第2版」、ピアソン・エデュケーション、2005年。
Kent Beck, Andres Cynthia, “Extreme Programming Explained : Embrace Change 2nd Edition,” Pearson Education, 2005.
- [BOE81] Barry w. Boehm, “Software Engineering Economics,” Prentice-Hall, 1981.
- [BOE88] Barry w. Boehm, “A Spiral Model of Software Development and Enhancement,” Computer, Vol 21, No. 5, IEEE, May, 1988.
- [BOE04] バリー・ベーム、リチャード・ターナー著、ウルシステムズ監訳、越智典子訳、「アジャイルと規律 ソフトウェア開発を成功させる2つの鍵のバランス」、日経BP社、2004年。
この本の原書は、以下のものである。
Barry Boehm, Richard Turner, “Balancing Agility and Discipline A Guide for the Perplexed,” Pearson Education, 2004.
- [BOO86] Grady Booch, “Object-Oriented Development,” IEEE Transactions on Software Engineering, Vol.12, No.2, IEEE, Feb. 1986.
- [BOO94] Grady Booch 著、山崎明宏他訳、「Booch 法: オブジェクト指向分析と設計 第2版」、星雲社、1995年。
この本の原書は、以下のものである。
Grady Booch, “Object-Oriented Analysis and Design with Applications Second Edition,” The Benjamin/Cummings Publishing Co. 1994.
- [BOO05] グラディ・ブーチ他著、羽生田栄一監訳、越智典子役、「UML ユーザガイド 第2版」、ピアソン・エデュケーション、2010年。
この原書は、以下のものである。
Grady Booch, James Rumbaugh, Ivar Jacobson, “The Unified Modeling Language Use Guide Second Edition.” Addison-Wesley, 2005.
- [BRO75] F.P.ブルックス Jr. 著、山内正彌訳、「ソフトウェア開発の神話」、企画センター、昭和52年。
この本の内容は、以下の本にそっくり含まれている。
フレデリック・P・ブルックス, Jr. 著、滝沢徹、牧野祐子、富澤昇訳、「人月の神話: 狼人間を撃つ銀の弾丸はない -原著発行20周年記念増訂版-」、アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン、1996年。
この本の原書は、以下のものである。
Frederic Phillips Brooks Jr., “The Mythical man-month : essays on software engineering,” Anniversary edition, Addison Wesley, 1995.
- [BRO87] Frederick P. Brooks, Jr., “No Silver Bullet,” IEEE Computer, 1987。
この論文は、以下の書籍に邦訳が転載されている。

フレデリック・P・ブルックス, Jr. 著、滝沢徹、牧野祐子、富澤昇訳、「人月の神話：狼人間を撃つ銀の弾丸はない ー原著発行 20 周年記念増訂版ー」、アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン、1996 年。

[CHE76], “The Entity-Relationship Model – Toward a Unified View of Data, “ ACM Transactions on Database Systems, Vol.1, No.1, pp9-36, 1976.

このペーパーは、ACM のデジタル・ライブラリ (<http://portal.acm.org/portal.cfm>) からダウンロードできる。(ただし、ACM のメンバーであることが必要。)

[CMM01] Bill Curtis、William E. Hefley、Sally A. Miller 著、前田卓雄訳、「People CMM 人を生かし組織を成長させる能力成熟モデル」、日刊工業新聞社、2003 年。

この本の原書は、以下のものである。

Bill Curtis, William E. Hefley, Sally A. Miller, “The People Maturity Model: Guidelines for Improving Workforce,” Addison-Wesley, 2001.

[CMM06] CMMI 成果物チーム、「開発のためのCMMI® 1.2版 CMMI-DEV, V1.2

CMU/SEI-2006-TR-008 ESC-TR-2006-008 より良い成果物のためのプロセス改善」、カーネギー・メロン大学ソフトウェア工学研究所、2006年。

この日本語の資料は、以前はインターネットでダウンロードできたが、今はその所在が分からなくなってしまった。

この本の原書は、以下のものである。

CMMI Product Team, “CMMI for Development, Version 1.2 CMMI-DEV, V1.2 CMU/SEI-2006-TR-008 ESC-TR-2006-008,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 2006

この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 2 月 15 日)。

<http://www.sei.cmu.edu/reports/06tr008.pdf>

[CMM09] Bill Curtis, Bill Hefley, Sally Miller, “People Capability Maturity Model (P-CMM) Version 2.0, Second Edition TECHNICAL REPORT CMU/SEI-2009-TR-003 ESC-TR-2009-003,” CMU, 2009.

この資料は、以下のURLからダウンロードできる (確認日 : 2017年 (平成29年) 2月17日)。

http://resources.sei.cmu.edu/asset_files/TechnicalReport/2009_005_001_15095.pdf

[CMM10a] CMMI 成果物チーム、「開発のためのCMMI® 1.3版 CMMI-DEV, V1.3

CMU/SEI-2010-TR-033 ESC-TR-2010-033 より良い製品とサービスを開発するためのプロセス改善」、カーネギー・メロン大学ソフトウェア工学研究所、2010年。

この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 2 月 15 日)。

<http://www.sei.cmu.edu/library/assets/whitepapers/CMMI-DEV-V1.3-Japanese.pdf>

この本の原書は、以下のものである。

CMMI Product Team, “CMMI for Development, Version 1.3 CMMI-DEV, V1.3 CMU/SEI-2010-TR-033 ESC-TR-2010-033,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 2010

この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 2 月 15 日)。

<http://www.sei.cmu.edu/reports/10tr033.pdf>

[CMM10b] CMMI Product Team, “CMMI for Acquisition, Version 1.3 CMMI-ACQ, V1.3 CMU/SEI-2010-TR-032 ESC-TR-2010-032,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 2010

この資料は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月15日）。

<http://www.sei.cmu.edu/reports/10tr032.pdf>

[CMM10c] CMMI Product Team, “CMMI for Services, Version 1.3 CMMI-SVC, V1.3 CMU/SEI-2010-TR-034 ESC-TR-2010-034,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 2010

この資料は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月15日）。

<http://www.sei.cmu.edu/reports/10tr034.pdf>

[COC01] アリスター・コバーン著、ウルシシステムズ（株）監訳、「ユースケース実践ガイド-効果的なユースケースの書き方」、（株）翔泳社、2001年。

この本の原書は、以下のものである。

Alistair Cockburn, “Writing Effective Use Case,” Addison Wesley Longman, 2001.

[COC02] アリスター・コバーン著、長瀬嘉秀他監訳、（株）テクノロジックアート訳、「アジャイルソフトウェア開発」、ピアソン・エデュケーション、2002年。

この本の原書は、以下のものである。

Alistair Cockburn, “Agile Software Development,” Pearson Education, 2002.

[CRA02] Rick D. Craig, Stefan P. Jaskiel 著、宗雅彦監訳、成田光彰訳、「体系的ソフトウェアテスト入門 アジャイル開発時代のテスト計画、準備、実行、プロセス改善まで」、日経 BP 社、2004年10月25日。

この本の原書は、以下のものである。

Rick D. Craig, Stefan P. Jaskiel, “Systematic Software Testing,” STQE Publishing, 2002.

[CRO79] フィリップ・B. クロスビー著、小林宏治監訳、「クオリティ・マネジメント：よい品質をタダで手に入れる法」、日本能率協会、1980年。

この本の原書は、以下のものである。

Philip B. Crosby, “Quality is Free,” MacGraw-Hill, 1979.

[DAV03] Noopur Davis, Julia Mullaney, “The Team Software ProcessSM (TSPSM) in Practice: A Summary of Recent Results CMU/SEI-2003-014 ESC-TR-2003-014,” Carnegie Mellon University Software Engineering Institute, 2003.

[DEM79] Tom DeMarco 著、高梨智弘、黒田純一郎監訳、「構造化分析とシステム化仕様-システム設計者とユーザーのための系統的開発手法」、日経 BP 社、1986年。

この本の原書は、以下のものである。

Tom DeMarco, “Structured Analysis and System Specification,” Prentice Hall, 1979.

[DEM82] Tom DeMarco 著、渡辺純一訳、「品質と生産性を重視した ソフトウェア開発プロジェクト技法 見積り・設計・テストの効果的な構造化」、近代科学社、1987年。

この本の原書は、以下のものである。

Tom DeMarco, “Controlling Software Projects Management, Measurement & Estimation,” Yourdon Inc., 1982.

[DEM87] トム・デマルコ／ティモシー・リスター著、松原友夫／山浦恒央訳、「ピープルウェア 第3版 ヤル気こそプロジェクト成功の鍵」、日経BP社、2013年。

前記の書籍はこの本の第3版であるが、この第3版には初版の内容がそっくりそのままの形で収録されている。

この本の原書は、以下のものである。

Tom DeMarco, Timothy Lister, “Peopleware 3rd Edition Productive Projects and Teams,” Dorset House, 2013.

[DEU88] Michael S. Deutsch, Ronald R. Willis 著、成田光彰訳、「ソフトウェア品質工学—技術・管理両面からの総合的アプローチ」、日経BP社、1990年。

この本の原書は、以下のものである。

Michael S. Deutsch, Ronald R. Willis, “Software Quality Engineering,” Prentice-Hall, 1985.

[DIJ68] Edsger W. Dijkstra, “Go To Statement Considered Harmful,” Communication of the ACM, Vol.11, No.3, ACM, March, 1968.

このペーパーは、ACMのデジタル・ライブラリ (<http://portal.acm.org/portal.cfm>) からダウンロードできる。(ただし、ACMのメンバーであることが必要。)

[DOR97] Edited by Merlin Dorfman, Richard H. Thaiyer, “Software Engineering,” IEEE, 1997.

[FAG76] M. E. Fagan, “Design and code inspections to reduce errors in program development,” pp182-211, IBM System Journal, Vol.15 No.3, 1976, IBM.

このペーパーは次のURLで、IBMのホームページからダウンロードできる(確認日:2017年(平成29年)1月13日)。

<http://www.research.ibm.com/journal/sj/382/fagan.pdf>

[FRE82] ダニエル・P. フリードマン、ジェラルド・M. ワインバーグ著、岡田正志監訳、「ソフトウェア技術レビューハンドブック：実践的ノウハウに関するQ&A」、TBS出版会、1987年。

この本の原書は、以下のものである。

Daniel P. Freedman, Gerald M. Weinberg “Handbook of Walkthroughs, Inspections, and Technical Reviews Evaluating Programs, Projects, and Products,” Dorset House, 1982.

[FUN08] 船津好明著、「グラフィックスの目次(方程式とグラフ) ゴンペルツ曲線」

この資料は、以下のURLからダウンロードできる(確認日:2017年(平成29年)1月26日)。

<http://www.wvq.jp/advanced6/gompertz1.htm>

[GAM95] エリック・ガンマ他著、本位田真一他監訳、「オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン 改訂版」、ソフトウェアバンクパブリッシング、1999年。

この本の原書は、以下のものである。

Erich Gamma and Richard Helm, “Design Patterns,” Addison Wesley, 1995.

[GIL93] Tom Gilb, Dorothy Graham 著、伊土誠一、富野壽監訳、「ソフトウェアインスペクション」、構造計画研究所、1999年。

この本の原書は、以下のものである。

Tom Gilb, Dorothy Graham, “Software Inspection,” Pearson Education, 1993.

[GLA03] ロバート・L. グラス著、山浦恒央訳、「ソフトウェア開発 55の真実と10のウソ」、日経BP社、2004年。

この本の原書は、以下のものである。

- Robert L. Glass, “Facts and Fallacies of Software Engineering,” Pearson Education, 2003.
[GRA06] ドロシー・グラハム他著、秋山浩一他訳、「ISTQB シラバス準拠 ソフトウェアテストの基礎」、センゲージ・ラーニング (株)、2008 年。

この本の原書は、以下のものである。

- Dorothy Graham, Erik van Veenendaal, Isabel Evans, and Rex Black, “Foundations of Software Testing : ISTQB Certification,” Cengage Learning, 2006.
[GRA07] ドロシー・グラハム他著、秋山浩一他訳、「ISTQB シラバス準拠 ソフトウェアテストの基礎」、センゲージ・ラーニング (株)、2008 年。

この本の原書は、以下のものである。

- Dorothy Graham, Erik van Veenendaal, Isabel Evans, and Rex Black, “Foundations of Software Testing : ISTQB Certification,” Cengage Learning, 2007.
[HUM89] Watts S. Humphrey 著、藤野喜一監訳、日本電気ソフトウェアプロセス研究会訳、「ソフトウェアプロセス成熟度の改善」、日科技連、1991 年。

この本の原書は、以下のものである。

- Watts S. Humphrey, “Managing the Software Process,” Addison-Wesley, 1989.
[HUM95] Watts S. Humphrey 著、松本 正雄他訳、「パーソナルソフトウェアプロセス技法—能力向上の決め手」、共立出版、1999 年。

この原書は、次のものである。

- Watts S. Humphrey, “A Discipline for Software Engineering,” Addison-Wesley, 1995.
[HUM97] Watts S. Humphrey 著、PSO ネットワーク訳、「パーソナルソフトウェアプロセス入門」、共立出版、2001 年。

この原書は、次のものである。

- Watts S. Humphrey, “Introduction to Personal Software Process,” Addison-Wesley, 1997.
[HUM00a] Watts S. Humphrey 著、秋山義博監訳、JASPIC TSP 研究会訳、「TSPi ガイドブック ソフトウェア開発の課題 10」、翔泳社、2008 年。

この原書は、次のものである。

- Watts S. Humphrey, “Introduction to Team Software Process,” Addison-Wesley, 2000.
[HUM00b] Watts S. Humphrey, “The Personal Software ProcessSM (PSPSM) Technical Report CMU/SEI-2000-TR-022 ESC-TR02000-022,” Carnegie Mellon University Software Engineering institute, 2000.

この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 2 月 17 日)。

<http://www.sei.cmu.edu/publications/documents/00.reports/00tr022.html>

- [HUM00c] Watts S. Humphrey, “The Team Software ProcessSM (TSPSM) Technical Report CMU/SEI-2000-TR-023 ESC-TR02000-023,” Carnegie Mellon University Software Engineering institute, 2000.

この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 2 月 17 日)。

<http://www.sei.cmu.edu/publications/documents/00.reports/00tr023.html>

- [HUM05] ワッツ・S・ハンフリー著、秋山義博監訳、JASPIC TSP 研究会訳、「PSP ガイドブック ソフトウェア開発の課題 8 ソフトウェアエンジニア自己改善」、翔泳社、2007 年。

この原書は、次のものである。

Watts S. Humphrey, “PSPS^{MA} : Self-Improvement Process for Software Engineers,
“ Pearson Educations, 2005.

[HUM06] ワッツ・S・ハンフリー著、秋山義博監訳、JASPIC TSP 研究会訳、「TSP ガイドブック：リーダー編 ソフトウェア開発の課題 6」、翔泳社、2007 年。

この原書は、次のものである。

Watts S. Humphrey, “TSP : Leading a Development Team,” Pearson Educations, 2006.

[HUM07] ワッツ・S・ハンフリー著、JASPIC TSP 研究会訳、「TSP ガイドブック：コーチング編 (IT Architects' Archive ソフトウェア開発の課題 12)」、翔泳社、2009 年。

この原書は、次のものである。

Watts S. Humphrey, “TSP : Coaching Development Teams (The SEI Series in Software Engineering),” Pearson Educations, 2007

[Hutatugi97] 二木厚吉監修、佐藤武久、大槻繁、金藤栄孝著、「ソフトウェアクリーンルーム手法 高品質ソフトウェア開発パラダイム 4」、日科技連、1997 年。

[ICT14] 一般社団法人 ICT 経営パートナーズ協会著、関 隆明監修、「超高速開発が企業システムに革命を起こす」、日経 BP 社、2014 年

[IEEE98f] IEEE-SA Standards Board, “IEEE Recommended Practice for Software Requirements Specifications IEEE Std 830-1998”, The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc., 1998.

[IEEE 98g] IEEE-SA Standards Board, “IEEE Standard for Software Test Documentation IEEE Std 829-1998,” The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. 1998.

[IEEE98h] IEEE-SA Standards Board, “IEEE Guide for Developing System Requirements Specifications IEEE Std 1233, 1998 Edition (R2002), “ The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc., 1998.

[IEEE98i] IEEE-SA Standards Board, “IEEE Guide for Information Technology – System Definition – Concept of Operations (ConOps) Document IEEE Std 1362 – 1998, “The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc., 1998.

[IEEE99a] Software Engineering Standards Committee of IEEE Computer Society, “IEEE Standard for Information Technology – Software Life Cycle Process Processes – Reuse Processes IEEE Std 1517-1999,” IEEE, 1999.

[IEEE99b] IEEE-CS/ ACM joint task force on Software Engineering Ethics and Professional Practice, “Software Engineering Code of Ethics and Professional Practice”.

この文書は、次の URL からダウンロードできる(確認日:2017 年(平成 29 年)2 月 20 日)。

<https://www.computer.org/web/education/code-of-ethics>

[IEEE08a] IEEE Computer Society Standards Coordinating Committee, “IEEE Standard for Software Reviews and Audit IEEE Std 1028-2008,” IEEE, 2008.

[IEEE09] IEEE Computer Society, “IEEE Standard for Information Technology -Systems Design - Software Design Descriptions IEEE Std 1016™-2009,” IEEE Computer Society, 2009.

[IEEE12a] Software Engineering Standards Committee of IEEE Computer Society, “IEEE Std. 828 Software Configuration Management,” IEEE, 2012.

- [IEEE13] 松本吉弘訳、「ソフトウェアエンジニアリング基礎知識体系 –SWEBOK V3.0」、オーム社、2014年。
この本の原著は次のものである。
IEEE Computer Society, “SWEBOK V3.0 Guide to the Software Engineering Body of Knowledge,” IEEE, 2013.
この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。
<http://www.computer.org/web/swebok/v3>
- [IEEE14] IEEE Computer Society Standards Coordinating Committee, “IEEE Standards for Software Quality Assurance Plans IEEE Std 730™-2014,” IEEE, 2014.
- [IEEE16] IEEE の CSDP の資格に関わるページの URL は、以下の通りである（確認日：2017年（平成29年）2月21日）。
<https://www.computer.org/web/education/certifications>
- [IPA03] 情報処理振興事業協会、「EVM 活用型プロジェクト・マネジメント導入ガイドライン」、2003年05月07日。
この資料は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月24日）。
http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/tyoutatu/evm-guideline.pdf
- [IPA06] 独立行政法人情報処理推進機構 IT 人材育成本部 IT スキル標準センター、「IT スキル標準 v2」、平成18年4月1日。
- [IPA07] 独立行政法人情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター編、「共通フレーム 2007～経営者、業務部門が参画するシステム開発および取引のために～ ソフトウェアライフサイクルプロセス SLCP-JCF2007」、(株) オーム社、2007年。
- [IPA08a] 独立行政法人情報処理推進機構 IT スキル標準センター、「IT スキル標準 v3」、平成20年3月31日。
なおこの資料は、以下の URL からダウンロード可能である。
http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download_V3.html
- [IPA08b] 独立行政法人情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター、「組込みスキル標準 ETSS2008」、2008年10月。
これに関連する一連の資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。
<https://www.ipa.go.jp/sec/softwareengineering/std/download.html>
- [IPA10a] 高信頼ソフトウェア領域 高信頼化のための手法WG、「高信頼化ソフトウェアのための開発手法ガイドブック・予防と検証の事例を中心に・（Ver.1.0）」、情報処理推進機構、2010年9月。
この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）1月25日）。
<http://sec.ipa.go.jp/reports/20100915.html>
- [IPA10b] 独立行政法人情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター、「非機能要求グレード利用ガイド [利用者編]」、独立行政法人情報処理推進機構、2010年。
この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。

<http://www.ipa.go.jp/sec/softwareengineering/reports/20100416.html>

[IPA10c] 独立行政法人情報処理推進機構、「情報システムユーザースキル標準 ～IS 機能の可視化による組織力向上のために～ Ver.2.2」、2010年3月。

これに関連する一連の資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/uiss/uiss_download_Ver2_2.html

[IPA12a] 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）ソフトウェア・エンジニアリング・センター（SEC）著、「ソフトウェア開発データ白書 2012-2013 IT企業3089プロジェクト プロジェクトの実践に生かす定量データ」、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、2012年。

[IPA12c] 独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部 ITスキル標準センター、「共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）」、独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部 ITスキル標準センター、2012年6月27日。

この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/ccsf/download.html>

[IPA12d] 独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部 ITスキル標準センター、「ITスキル標準 v3 2011」平成12年3月26日。

これに関連する一連の資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download_V3.html

[IPA13a] 情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター編、「共通フレーム 2013 経営者、業務部門が参画するシステム開発及び取引のために ソフトウェアライフサイクルプロセス 共通フレーム 2013」、オーム社、平成25年。

[IPA13b] 独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部情報処理試験センター、「情報処理技術者試験 基本情報処理技術者試験（レベル2）シラバス -情報処理技術者試験における知識・技能の細目-」、独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部情報処理試験センター、平成25年4月。

この資料に限らずこの一連の資料は、次の URL からアクセスすることで全てダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月28日）。

https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_hanni_skill.html#syllabus

[IPA14] 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）ソフトウェア・エンジニアリング・センター（SEC）著、「ソフトウェア開発データ白書 2014-2015 IT企業3541プロジェクト プロジェクトの実践に生かす定量データ」、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、2014年。

[IPA15a] 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）ソフトウェア・エンジニアリング・センター（SEC）著、「SECBOOKS 組込みソフトウェア開発データ白書 2015」、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、2015年。

[IPA15b] 情報処理推進機構、「情報処理技術者試験の海外との相互認証について」、2015年3月31日。

この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017（平成29年）年2月21日）。

<http://www.ipa.go.jp/jinzai/asia/kaigai/001.html>

- [IPA16a] 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC) 著、「ソフトウェア開発データ白書 2016-2017 IT 企業 4067 プロジェクト プロジェクトの実践に生かす定量データと分析結果」、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)、2016 年。
- [IPA16b] 情報処理技術者試験。 https://www.jitec.ipa.go.jp/1_08gaiyou/_index_gaiyou.html/
- [IPSJ07] 日本情報処理学会、「カリキュラム標準」、
この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017 年 (平成 29 年) 2 月 28 日)。
https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/j07/ed_j07.html
- [IPSJ09] 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリング教育委員会、「カリキュラムモデル J07-SE の概要」、2009 年 1 月。
この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日: 2017 年 (平成 29 年) 2 月 28 日)。
<https://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/J07/J0720090407.html>
- [IPSJ12] 「情報システムの要求仕様と要件定義」、IS デジタル辞典。
この情報は、以下の URL からダウンロードできる (確認日: 2017 年 (平成 29 年) 1 月 16 日)。
<http://ipsj-is.jp/isdic/976/>
- [ISACA16] ISACA の CISA に関わるページの URL は、以下の通りである (確認日: 2017 (平成 29 年) 年 2 月 21 日)。
<http://www.isaca.gr.jp/cisa/index.html>
- [ISH05] 石田秀人著、「タコでもわかる主成分分析 第 6 章 シグモイド曲線を求めよう」
この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日: 2017 年 (平成 29 年) 1 月 26 日)。
<http://home.a02.itscom.net/coffee/tako06.html>
- [ISO98] ISO/IEC, “Information technology -- Software life cycle processes -- Configuration Management ISO/IEC TR 15846:1998,” ISO/IEC, 1998.
- [ISO99] ISO/IEC, “Software Engineering – Mock up and prototype – A categorization of software mock up and prototype models and their use ISO/IEC TR 14759 : 1999,” ISO/IEC, 1999.
- [ISO03a] ISO/IEC, “Software Engineering – Product Quality – Part 2 : External metrics ISO/IEC TR 9126-2 : 2003,” ISO/IEC, 2003.
- [ISO03b] ISO/IEC, “Software Engineering – Product Quality – Part 3 : Internal metrics ISO/IEC TR 9126-3 : 2003,” ISO/IEC, 2003.
- [ISO03c] ISO, “Quality Management System – Guideline for Configuration Management ISO 10007:2003,” ISO, 2003.
- [ISO04d] 日本規格協会、「ISO/IEC 15504-1 First edition 2004-11-1 Information technology – Process assessment – 情報技術—プロセスアセスメント— Part 1 : Concept and vocabulary 第 1 部 : 概念及び用語 英和対訳版」、日本規格協会、2004.
- [ISO06a] “Software Engineering – Software Life Cycle Process - Maintenance ISO/IEC 14764 IEEE Std 14764-2006,” ISO/IEC, 2006-09-01.

- [ISO08a] ISO/IEC, “ Software engineering -- Certification of software engineering professionals -- Comparison framework ISO/IEC 24773,” ISO/IEC, 2009.
- [ISO10a] ISO/IEC/IEEE, “System and software engineering – Vocabulary—ISO/IEC/IEEE 24765:2010(E),” ISO/IEC, 2010-12-15.
- [ISO12a] ISO/IEC, “Information technology - Process assessment - Part 5: An exemplar software life cycle process assessment model,” ISO, 2012.
- [ISO13a] ISO/IEC, “Information technology - Process assessment - Part 6: An exemplar system life cycle process assessment model,” ISO, 2013.
- [ISO14] ISO/IEC, “Software Engineering – Guidelines for the Application of ISO 9001 : 2008 to Computer Software,” ISO/IEC, 2014.
- [ISSJ10] 情報システム学会企画委員会「社会への提言」検討チーム、「大規模システム化した自動車の安全性向上策～プリウス・ブレーキのリコール問題考察からの提言～」、2010年10月12日。
この資料は、以下の URL からダウンロードできる。（確認日：2016年（平成28年）11月21日）
http://www.issj.net/teigen/1010_jidousha.pdf
- [IST11] International Software Testing Qualification Board 著、Japan Software Testing Qualification Board 訳、「テスト技術者資格制度 Foundation Level シラバス 日本語版 (Version 2011)」
この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）1月25日）。
http://jstqb.jp/dl/JSTQB-Syllabus.Foundation_Version2011.J01.pdf
- [ITPRO08] 日経コンピュータ、「総費用 3300 億円の巨大プロジェクト、三菱東京 UFJ 銀のシステム統合が完了」、2008年12月15日。
この記事は、次の URL からダウンロードできる。（確認日：2016年（平成28年）12月15日）
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20081215/321442/>
- [ITPRO15]、日経コンピュータ、「みずほもすなる『超高速開発』」、2015年10月16日号、「記者の目」。
この記事は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）1月23日）。
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/watcher/14/334361/082400358/?rt=nocnt>
- [ITPRO16] 日経コンピュータ、「『全てのプロジェクトが予定通り総合テスト入り』、みずほ銀行の次期勘定系開発が大詰め」、2016年8月9日。
この記事は、次の URL からダウンロードできる。（確認日：2016年（平成28年）12月15日）
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/14/346926/080800601/>
- [JAC92] I. ヤコブソン他著、西岡利博他監訳、「オブジェクト指向ソフトウェア工学 OOSE – use-case によるアプローチ-」、アジソン・ウェスレイ、1995年。
この本の原書は、以下のものである。
Ivar Jacobson, Magnus Christerson, Patric Jonsson, Gunner Overgaard, “Object-Oriented Software Engineering A Use Case Driven Approach,” ACM Press, 1992.

- [JIS96] 日本工業標準調査会審議、「ソフトウェアライフサイクルプロセス JIS X 0160-1996 (ISO/IEC 12207 : 1995)」、日本規格協会、平成 8 年.
- [JIS99a] 日本工業標準調査会 情報部会 審議、「ソフトウェアライフサイクルプロセス—構成管理 TR X 0018 : 1999 (ISO/IEC TR 15846 : 1998)」、日本規格協会、平成 11 年.
- [JIS03a] 日本工業標準調査会審議、「JIS ソフトウェア製品の品質—第 1 部 : 品質モデル JIS X 0129-1 : 2003 (ISO/IEC 9126-1 : 2001)」、日本規格協会、平成 15 年.
- [JIS06a] 日本工業標準調査会審議、「JIS 品質マネジメントシステム—基本及び用語 JIS Q 9000 : 2006 (ISO 9000 : 2005)」、日本規格協会、平成 18 年.
- [JIS08a] 日本工業標準調査会審議、「ソフトウェア技術—ソフトウェアライフサイクルプロセス—保守 JIS X 0161 : 2008 (ISO/IEC 14764 : 2006)」、日本規格協会、平成 20 年.
- [JIS08b] 日本工業標準調査会審議、「情報技術—プロセスアセスメント—第 1 部 : 概念及び用語 JIS X 0145-1 : 2008 (ISO/IEC 15504-1 : 2004)」、日本規格協会、平成 20 年.
- [JIS08c] 日本工業標準調査会審議、「情報技術—プロセスアセスメント—第 2 部 : アセスメントの実施 JIS X 0145-2 : 2008 (ISO/IEC 15504-2 : 2004)」、日本規格協会、平成 20 年.
- [JIS08d] 日本工業標準調査会審議、「システム及びソフトウェア技術—ライフサイクルプロセス—リスク管理 JIS X 0162 : 2008 (ISO/IEC 16085 : 2006)」、日本規格協会、平成 20 年.
- [JIS09a] 日本工業標準調査会審議、「ソフトウェア測定プロセス JIS X 0141 : 2009 (ISO/IEC 15939 : 2007)」、日本規格協会、平成 21 年.
- [JIS10a] 日本工業標準調査会審議、「ソフトウェア技術—機能規模測定—IFPUG 機能規模測定法 (IFPUG4.1 版未調整ファンクションポイント) 計測マニュアル」、日本規格協会、平成 22 年.
- [JIS10b] 日本工業標準調査会審議、「組織の持続的成功のための運営管理—品質マネジメントアプローチ JIS Q 9004 : 2010 (ISO 9004 : 2009)」、日本規格協会、平成 22 年.
- [JIS10c] 日本工業標準調査会審議、「リスクマネジメント—原則及び指針 JIS Q 31000 : 2010 (ISO 31000 : 2009)」、日本規格協会、平成 22 年.
- [JIS10d] 日本工業標準調査会審議、「リスクマネジメント—用語 JIS Q 0073 : 2010 (ISO Guide 73 : 2009)」、日本規格協会、平成 22 年.
- [JIS12a] 日本工業標準調査会審議、「ソフトウェアライフサイクルプロセス JIS X 0160 : 2012 (ISO/IEC 12207 : 2008)」、日本規格協会、平成 24 年.
- [JIS12b] 日本工業標準調査会審議、「マネジメント・システム監査のための指針 JIS Q 19011 : 2012 (ISO 19011 : 2011)」、日本規格協会、平成 24 年.
- [JIS12c] 日本工業標準調査会審議、「リスクマネジメント—リスクアセスメント技法 JIS Q 31010 : 2012 (IEC/ISO 31010 : 2009)」、日本規格協会、平成 24 年.
- [JIS13a] 日本工業標準調査会審議、「JIS システム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価—システム及びソフトウェア品質モデル JIS X 25010 : 2013 (ISO/IEC 25010 : 2011)」、日本規格協会、平成 25 年.
- [JIS13b] 日本工業標準調査会審議、「システムライフサイクルプロセス JIS X 0171 : 2013 (ISO/IEC 15288 : 2008)」、日本規格協会、平成 25 年.
- [JIS14] 日本工業標準調査会審議、「システムおよびソフトウェア技術—ライフサイクルプロセス—要求エンジニアリング JIS X 0166 : 2014 (ISO/IEC/IEEE 29148 : 2011)」、日本規格協会、平成 26 年.

- [JIS15a] 日本工業標準調査会審議、「JIS 品質マネジメントシステム—基本及び用語 JIS Q 9000 : 2015 (ISO 9000 : 2015)」、日本規格協会、平成 27 年.
- [JIS15b] 日本工業標準調査会審議、「品質マネジメントシステム—要求事項 JIS Q 9001 : 2015 (ISO 9001 : 2015)」、日本規格協会、平成 27 年.
- [JISA11] 情報サービス産業協会 REBOK 企画 WG、「要求工学知識体系 REBOK 第 1 版」、近代科学社、2011 年 6 月 30 日.
- [JON93] Capers Jones 著、島崎恭一他監訳、「ソフトウェアの病理学 システム開発・保守の手引き」、構造計画研究所、1995 年.
この本の原書は、以下のものである。
Capers Jones, “Assessment and Control of Software Risks,” Prentice Hall, 1993.
- [JON96a] Capers Jones 著、伊土誠一、富野寿監訳、「ソフトウェアの成功と失敗」、構造計画研究所、1997 年.
この本の原書は、以下のものである。
Capers Jones, ‘Patterns of Software Systems Failure and Success,’ International Thomson Publishing, 1996.
- [JON96b] Capers Jones 著、富野壽監訳、「ソフトウェア品質のガイドライン」、(株) 構造計画研究所、1999 年.
この本の原書は、以下のものである。
Capers Jones, ‘Software Quality Analysis and Guideline for Success,’ International Thomson Publishing, 1996.
- [JON96c] Capers Jones 著、鶴保証城他監訳、「ソフトウェア開発の定量化手法 第 2 版」、構造計画研究所、1998 年 4 月 20 日.
この本の原書は、以下のものである。
Capers Jones, “Applied Software Measurement Assuring Productivity and Quality Second Edition,” McGraw-Hill, 1996.
- [JON07] Capers Jones 著、「ソフトウェア見積もりのすべて — 現実に即した規模・品質・工数・工期の予測—第 2 版」、構造計画研究所、2009 年.
この本の原書は、以下のものである。
Capers Jones, “Estimating Software Costs Bringing Realism to Estimating Second Edition,” The McGraw Hill, 2007.
- [JON08] Capers Jones 著、富野壽、小坂恭一監訳、「ソフトウェア開発の定量化手法 生産性と品質の向上を目指して 第 3 版」、構造計画研究所、2010 年.
この本の原書は、以下の通りである。
Capers Jones, “Applied Software Measurement: Global Analysis of Productivity and Quality Third Edition,” McGraw-Hill, 2008.
- [JUAS03] 「情報システムのユーザー満足度プロジェクト報告書」、(社) 日本情報システム・ユーザー協会、2003 年.
- [JUAS05] 日本情報システム・ユーザー協会編、「システム・リファレンス・マニュアル (SRM)」、日本情報システム・ユーザー協会、2005 年.
- [JUAS06] 日本情報システム・ユーザー協会、「企業 IT 動向調査 2006 報告書」、日本情報システム・ユーザー協会、2006 年.

- [JUAS07] 「要求仕様定義ガイドライン～UVC 研究プロジェクト報告書～」、(社)日本情報システム・ユーザー協会、平成 19 年 3 月。
- [JUAS08a] 日本情報システム・ユーザー協会、「検収フェーズのモデル取引整備報告書 UVC 研究プロジェクト II 報告書 非機能要求仕様定義ガイドライン」、日本情報システム・ユーザー協会、平成 20 年 6 月。
- [JUAS08b] 日本情報システム・ユーザー協会、「ユーザー企業ソフトウェアメトリクス調査 2008 ソフトウェアの開発・保守・運用の評価指標」、日本情報システム・ユーザー協会、平成20年7月。
- [JUAS09a] 日本情報システム・ユーザー協会、「障害を発生させない、被害を拡大させないためのシステム対策ガイド」、日本情報システム・ユーザー協会、2009 年。
- [JUAS10a] 日本情報システム・ユーザー協会、「情報システムの信頼性向上ガイド 障害を発生させない、被害を拡大させないための、システム対策」、日本情報システム・ユーザー協会、2010 年 7 月。
- [JUAS11] 日本情報システム・ユーザー協会、「ビジネス情報システム開発のための 5W4H で解き明かすプロジェクト管理」、日本情報システム・ユーザー協会、2011 年。
- [JUAS13a] 日本情報システム・ユーザー協会、「ユーザー企業ソフトウェアメトリクス調査 2013 ソフトウェアの開発・保守・運用の評価指標」、日本情報システム・ユーザー協会、2013 年 6 月。
- [JUAS14a] 日本情報システム・ユーザー協会、「ユーザー企業ソフトウェアメトリクスー要点ハンドブッカー」、日本情報システム・ユーザー協会、2014 年 2 月。
- [JUAS16] 日本情報システム・ユーザー協会、「ユーザー企業ソフトウェアメトリクス調査 2016 ソフトウェアの開発・保守・運用の評価指標」、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会、2016 年 4 月。
- [KAN99] Cem Kaner、Jack Falk、Quoc Nguyen 著、テスト技術者交流会訳、「基本から学ぶソフトウェアテスト」、日経 BP 社、2001 年。
この本の原書は、以下のものである。
Cem Kaner, Jack Falk, Hung Quoc Nguyen, “Testing Computer Software second edition,” John Wiley and Sons, 1999.
- [KAY77] Alan Kay, Adele Goldberg, “Personal Dynamic Media,” IEEE Computer, Vol.10, No.3, pp31-41, IEEE, 1977.
なおこのペーパーは、次の本に収録されている。
アラン・ケイ著、浜野保樹監訳、鶴岡雄二訳、「アラン・ケイ」、アスキー、1992 年。
- [Kisi16] 岸知二、野田夏子著、「ソフトウェア工学」、近代科学社、2016 年。
- [KOO99] Tim Koomen 他著、富野壽監訳、「テスト・プロセス改善 –CMM 流実務モデル」、構造計画研究所、2002 年。
この本の原書は、以下のものである。
Tim Koomen, Martin Pol, “Test Process Improvement,” IQUIP informatica B. V., 1999.
- [KRU03] フィリップ・クルーシュテン著、藤井拓監訳、「ラショナル統一プロセス 第 3 版」、アスキー、2004 年。
この本の原書は、以下のものである。
Philippe Kruchten, “The Rational Unified Process - An Introduction, Third Edition,” Addison Wesley Professional, 2004.

- [LAM04] クレーグ・ラーマン著、児高慎治郎他監訳、越智典子訳、「初めてのアジャイル開発スクラム、XP、UP、Evo で学ぶ反復型開発の進め方」、日経 BP 社、2004 年。
この本の原書は、以下のものである。
Graig Larmann, “Agile and Iterative Development A manager’s Guide,” Peason Education, 2004.
- [LIK04] ジェフリー・K・ライカー著、稲垣公夫訳、「ザ・トヨタウェイ（上、下）」、日経 BP社、2004年。
この本の原書は、以下のものである。
Jeffrey K. Liker, “The Toyota Way,” MACGRAW-HILL, 2004.
- [MARC02] John J. Marciniak Ed. “Encyclopedia of Software Engineering Second Edition,” John Wiley & Sons, 2002.
- [MART85] J. マーチン、C. マックルーア著、国友義久、渡辺純一訳、「ソフトウェア構造化技法 ダイアグラム法による」、近代科学社、昭和 61 年。
この原書は、以下のものである。
James Martin, Carma McClure, “Diagraming Techniques for Analysts and Programmers,” Prentice Hall, 1985.
- [MART89] ジェームズ・マーチン著、竹林則彦監修、三菱 CC 研究会 IE タスクフォース訳、「インフォメーション・エンジニアリング I 統合化 CASE のための方法論」、(株) トッパン、1991 年。
この本の原書は、以下のものである。
James Martin, “Information Engineering Book 1 Introduction,” Prentice-Hall, 1989.
- [MART90a] ジェームズ・マーチン著、竹林則彦監修、三菱 CC 研究会 IE タスクフォース訳、「インフォメーション・エンジニアリング II 統合化 CASE による計画と分析」、(株) トッパン、1992 年。
この本の原書は、以下のものである。
James Martin, “Information Engineering Book 2 Planning & Analysis,” Prentice-Hall, 1990.
- [MART90b] ジェームズ・マーチン著、竹林則彦監修、三菱 CC 研究会 IE タスクフォース訳、「インフォメーション・エンジニアリング III 統合化 CASE による設計と製作」、(株) トッパン、1994 年。
この本の原書は、以下のものである。
James Martin, “Information Engineering Book 3 Design & Construction,” Prentice-Hall, 1990.
- [MART91] ジェームズ・マーチン著、芦沢真佐子他訳、「ラピッドアプリケーションデベロップメント I、II」、リックテレコム、1994年。
この本の原書は、以下のものである。
James Martin, “Rapid Application Development,” Mccmillan Publishing Co., 1991.
- [MAS03] 増永良文著、「リレーショナルデータベース入門 [新訂版] ーデータモデル・SQL・管理システムー」、Information & Computing - 43、サイエンス社、2003 年。
- [MCC98] Steve McConnell 著、(株) アルテア・ジャパン訳、久手堅憲之監修、「新訳ソフトウェアプロジェクトサバイバルガイド」、日経 BP ソフトプレス、2005 年。
この本の原書は、以下のものである。

Steve McConnell, “Software Project Survival Guide,” Microsoft, 1998.

[MCC05] Steve McConnel 著、(株) クイープ訳、「Code Complete 第2版」、日経 BP 社、2014年。

この本の原書は、以下のものである。

Steve McConnell, “Code Complete: A Practical Handbook of Software Construction, 2nd Edition,” Microsoft Press, 2004.

[MCCLURE01] Carma McClure, “Software Reuse A Standard-Based Guide¹,” IEEE Computer Society, 2001.

[MCM84] Stephen McMenamin, John F. Palmar, “Essential Systems Analysis,” Addison Wesley, 1984.

[METI06] 「EA ポータル」.この情報は以下の URL からダウンロードできたが、今は削除されている。(確認日：2017年(平成29年)1月11日)

http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/ea/index.html

[METI07a] 情報システムの信頼性向上のための取引慣行・契約に関する研究会、「情報システム・モデル取引・契約書 (受託開発 (一部企画を含む)、保守運用) (第一版)」、経済産業省商務情報政策局情報処理振興課、平成19年4月。

この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日：平成28年8月22日)。

http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/keiyaku/model_keiyakusyo.pdf

[METI07b] 情報システムの信頼性向上のための取引慣行・契約に関する研究会、「情報システム・モデル取引・契約書 (受託開発 (一部企画を含む)、保守運用) (第一版) について」、経済産業省商務情報政策局情報処理振興課、平成19年4月。

この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日：平成28年8月22日)。

http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/keiyaku/model_keiyakusyo_gaiyou.pdf

[METI11] 「産学連携ソフトウェア工学実践事業 (高信頼組込みソフトウェア開発) 概要」、経済産業省、平成23年1月7日。

この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日：2017年(平成29年)1月3日)。

http://www.meti.go.jp/committee/summary/0001640/035_05_04.pdf

[METI16] 経済産業省商務情報政策局情報処理振興課／情報経済課、「『組込みシステム基盤開発事業』の概要」、平成26年2月3日。

この資料は、次の URL からダウンロードできる (確認日：2017年(平成29年)1月9日)。

http://www.meti.go.jp/policy/tech_evaluation/c00/C0000000H25/140203_zyouhou1/zyouhou1_siryoushou5_3.pdf

¹ IEEE は 1998 年頃に、ソフトウェア開発に関わる多くの規格を定めて公表している。これらの規格には、制定以降 20 年近くが経緯している今でも、まだ現役のものが多い。この再利用に関わる規格も、その 1 つである。この多くの規格の制定に伴って、IEEE は “A Standard-Based Guide” と銘打った規格の解説書群の発行を計画した。この書籍は、そういう経緯で発行されたものである。計画通りに書籍が発行されていればソフトウェア開発に関わる素晴らしいライブラリが完成したはずだった。しかし一部の書籍は計画倒れに終わり、残念なことに日の目を見なかった。

- [Mills87] Harlan D. Mills, Michael Dyer, Richard C. Linger, “Cleanroom Software Engineering“, IEEE Software, Sep. 1987, pp19-25.
- [MOO06] James W. Moore, “The Road Nap to Software Engineering A Standards-Based Guide,” A John Wiley & Sons, 2006.
- [NAG90] 長尾真他編集、「岩波情報科学辞典」、岩波書店、1990年。
- [NIE94] ヤコブ・ニールセン著、「ユーザビリティエンジニアリング原論—ユーザーのためのインタフェースデザイン（第二版）」、東京電機大学出版会、2002年。
- [NIK02a] 日経コンピュータ編、「システム障害はなぜ起きたか みずほの教訓」、日経 BP 社、2002年。
- [NIK02b] 日経コンピュータ編、「動かないコンピュータ 情報システムに見る失敗の研究」、日経 BP 社、2002年。
- [NIK16a] 「トップ棋士に圧勝 「直感」身につけたグーグル AI」、日経電子版、2016年3月13日。
この記事は、以下の URL からアクセスできる（確認日：2017年（平成29年）1月24日）
（ただしアクセスするためには、日経電子版に会員登録することが必要）。
<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO98306810R10C16A3000000/>
- [NUE95] ピーター・ニューマン著、滝沢徹他訳、「危ないコンピュータ 頻発するコンピュータ事故からの教訓」、ピアソン・エデュケーション、1999年。
この本の原書は、以下のものである。
Peter G. Nuemann, “Computer Related Risks,” ACM Press, 1995.
- [OOB16] 大林組ピラミッド建設プロジェクト、「クフ王型大ピラミッド建設 建設計画の試み」
この記事は、次の URL からダウンロードできる。（確認日：2016年（平成28年）12月15日）
https://www.obayashi.co.jp/kikan_obayashi/pyramid/p01.html
- [OGC08a] Office of Government Commerce、「ITIL v3 サービスデザイン」、The Stationary Office、2008年5月。
- [ORegan14] Gerard O’Regan, “Introduction to Software Quality,” Springer International Publishing, 2014.
- [PAG80] Meikir Page-Jones, “The Practical Guide to Structured System Design Second Edition,” Prentice-Hall, 1980.
- [PAU93a] Mark C. Paulk 他著、「ソフトウェア能力成熟度モデル 1.1 版技術報告書 1993年2月、CMU/SEI-93-TR-24、ESC-TR-93-177」、ソフトウェアエンジニアリング研究所、カーネギーメロン大学、1993年。
この日本語の資料は、以前はインターネットでダウンロードできたが、今はその URL が分からなくなってしまった。
この資料の原書は、次のものである。
Mark C. Paulk, Bill Curtis, Mary Beth Chrissis, Charles V. Weber, “Capability Maturity ModelSM for Software Version 1.2 Technical Report CMU/SEI-93-TR-024,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 1993.
この資料は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017年（平成29年）2月15日）。
<http://www.sei.cmu.edu/pub/documents/93.reports/pdf/tr24.93.pdf>

[PAU93b] Mark C. Paulk 他著、「能力成熟度モデルのキープラクティス 1.1 版 技術報告書 1993 年 2 月、CMU/SEI-93-TR-25、ESC-TR-93-178」、ソフトウェアエンジニアリング研究所、カーネギーメロン大学、1993 年。

この日本語の資料は、以前はインターネットでダウンロードできたが、今はその URL が分からなくなってしまった。

この資料の原書は、次のものである。

Mark C. Paulk, Charles V. Weber, Suzanne M. Garcia, Mary Beth Chrissis, Marilyn Bush, “Key Practice of the Capability Maturity ModelSM, Version 1.1 Technical Report CMU/SEI-93-TR-025, ESC-TR-93-178,” Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, 1993.

この資料は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年（平成 29 年）2 月 15 日）。

<http://www.sei.cmu.edu/pub/documents/93.reports/pdf/tr25.93.pdf>

[PET95] アイバース・ピーターソン著、伊豆原弓訳、「殺人バグを追え」、日経BP社、1997 年。

この本の原書は、以下のものである。

Ivars Peterson, “Fatal Defect,” Random House Value Publishing, 1995.

[PFL09] Shari Lawrence Pfleeger, Joanna M. Atlee, “Software Engineering Theory and Practice (4th Edition),” Pearson Prentice Hall, 2009

[PMI13] Project Management Institute 著、プロジェクト・マネジメント協会東京支部訳、「プロジェクト・マネジメント知識体系ガイド (PMBOK ガイド) 第 5 版」、Project Management Institute, 2014 年。

この本の原書は、以下のものである。

Project Management Institute, “A guide to the project management body of knowledge (PMBOK guide) Fifth edition,” Project Management Institute, 2013.

[PMI16] PMI の PMP に関わるページの URL は、以下の通りである（確認日：2017（平成 29 年）年 2 月 21 日）。

<https://www.pmi-japan.org/>

[POP03] メアリー・ポップペンディック、トム・ポップペンディック著、平鍋健児他訳、「リーンソフトウェア開発 アジャイル開発を实践する 22 の方法」、日経 BP 社、2004 年。

この本の原書は、以下のものである。

Mary Poppendieck, Tom Poppendieck, “Lean Software Development An Agile Toolkit,” Addison-Wesley, 2003.

[PRE97] Roger S. Pressman 著、飯塚悦功他監訳、「実践ソフトウェア工学 第 1 分冊」、日科技連、2000 年。

この本は、[PRE01]、および[PRE05]であげた本の第 4 版の日本語訳である。

[PRE01] ロジャー S. プレスマン著、西康晴他監訳、「実践ソフトウェアエンジニアリング - ソフトウェアプロフェッショナルのための基本知識-」、日科技連、2005 年。

この本の原著は以下のものである。

Roger S. Pressman, “Software Engineering A Practitioner’s Approach 5th Edition,” The McGraw Hill Co., 2001.

[PRE05] ロジャー S. プレスマン著、西康晴他監訳、古沢聡子他訳、「実践ソフトウェアエンジニアリング」、日科技連、2005 年。

この本の原書は、以下のものである。

Roger S. Pressman, “Software Engineering A Practitioner’s Approach 6th Edition,” The McGraw Hill Co., 2005.

[PRE14] Roger S. Pressman, Bruce Maxim, “Software Engineering A Practitioner’s Approach 8th Edition,” The McGraw Hill Co., 2014.

[PROENG16] 日本技術士会のホームページの URL は、以下の通りである（確認日：2017（平成 29 年）年 2 月 21 日）。

http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/000367.html

[RAY97] エリック・スティーブン・レイモンド著、山形浩生訳、「伽藍とバザール オープン・ソース・ソフト Linux マニフェスト」、光芒社、平成 11 年。

この本には「伽藍とバザール」、「ノウアスフィアの開墾」と「魔法のおなべ」の 3 つの論文が掲載されている。その「伽藍とバザール」の部分は、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年(平成 29 年)1 月 24 日）。

<http://cruel.org/freeware/cathedral.html>

この本の原書は、以下のものである。

Eric S. Raymond, “The Cathedral & the Bazaar Musings on Linux and Open Source by an Accidental Revolutionary,” O’Reilly, 2001.

またこの「伽藍とバザール」の原文も、次の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年(平成 29 年)1 月 24 日）。

<http://www.catb.org/%7Eesr/writings/cathedral-bazaar/>

（原書も含めてこの本は、先にそれぞれの論文がインターネット上で発表され、それまとめて後で本の形にして出版したという経緯がある。）

[RAY99] エリック・スティーブン・レイモンド著、山形浩生訳、「ハロウィーン文書」

この資料は、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年(平成 29 年)1 月 24 日）。

<http://cruel.org/freeware/halloween.html>

この資料の原文も、以下の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年(平成 29 年)1 月 24 日）。

<http://www.catb.org/~esr/halloween/>

[ROY70] Royce, Winston W. (1970): “Managing the Development of Large Software Systems: Concepts and Techniques. In: Technical Papers of Western Electronic Show and Convention (WesCon).”, August 25-28, 1970, Los Angeles, USA.

この論文は次の URL からダウンロードできる（確認日：2017 年(平成 29 年)2 月 28 日）。

<http://www.cs.umd.edu/class/spring2003/cmssc838p/Process/waterfall.pdf>

[RUM91] J. ランボー他著、羽生田栄一監訳、「オブジェクト指向方法論 OMT モデル化と設計」、トッパン、1992 年。

この本の原書は、以下のものである。

James Rumbaugh, “Object Oriented Modeling and Design,” Prentice Hall, 1991.

[SAK02] 坂村健著、「ユビキタス・コンピュータ革命」、角川書店、2002 年。

- [SAN94] J. サンダース、E. カラン著、原田暉他訳、「ソフトウェア品質向上のすすめ—新しいソフトウェア開発の標準」、(株) トッパン、1996年。
この本の原書は、以下のものである。
Joc Sanders, Eugene Curran, “Software Quality A Framework for Success in Software Development and Support,” Addison-Wesley Publishing, 1994.
- [SAT05] 佐藤正美著、「データベース設計論—T字型 ER 関係モデルとオブジェクト指向の統合をめざして」、ソフト・リサーチ・センター、2005年。
- [SIM05] 清水吉男著、「[入門+実践]要求を仕様化する技術表現する技術～仕様が書けていますか」、(株) 技術評論社、平成 17年。
なおこの本は、2010年(平成 22年)に第2版が発行された。第2版は、以下のものである。
清水吉男著、「[入門+実践]要求を仕様化する技術表現する技術～仕様が書けていますか 改訂第2版」、(株) 技術評論社、2010年6月1日。
- [SEI06] Carnegie Mellon, Software Engineering Institute, “Process Maturity Profile, Software CMM, 2005 End-Year Update, March 2006,” Carnegie Mellon University, 2006。
この資料は、以前はインターネットでダウンロードできたが、今はその所在が分からなくなってしまった。
- [SEI07b] “Compilation Data for Projects Using TSP and PSP”。
この資料は、以下の URL からダウンロードすることができる(確認日: 2017年(平成 29年) 2月 17日)。
<http://www.sei.cmu.edu/tsp/results/compilation.html>
- [SEI15] Carnegie Mellon, Software Engineering Institute, “Maturity Profile Ending June 30 2015,” Carnegie Mellon University, 2015。
この資料は、次の URL からダウンロードできる(確認日: 2017年(平成 29年) 2月 15日)。
<http://cmmiinstitute.com/resources/process-maturity-profile-july-2015>
- [SMS07] ソフトウェア・メンテナンス研究会編、増井和也他著、「～ISO14764 による～ソフトウェア保守開発」、ソフト・リサーチ・センター、2007年。
- [SCH96] <http://www.csc.calpoly.edu/~mshloh/senior/title.html> (今この URL を検索すると “Not Found” になって、情報を得ることができない(確認日: 2017年(平成 29年) 1月 3日)。)
- [SOM97] Ian Sommerville 他著、富野壽監訳、「要求定義工学プラクティスガイド」、(株) 構造計画研究所、2000年。
この本の原書は、次のものである。
Ian Sommerville, Pete Sawyer “Requirements Engineering A Good Practice Guide,” John Wiley & Sons, 1997.
- [SOM15] Ian sommerville, “Software Engineering 10th Edition,” Addison=Wesley, 2015.
- [STE74] W. Stevens, G. Myers, L. Constantine, “Structured Design,” IBM System Journal, Vol.13, No.2, IBM, May, 1974。
このペーパーは、ACM のデジタル・ライブラリ (<http://portal.acm.org/portal.cfm>) からダウンロードできる。(ただし、ACM のメンバーであることが必要。)
- [TAM94] 玉置彰宏著、「よくわかるコンピュータキーワード解説」、日経 BP 社、1994年。

- [TAY97] David A. Taylor, “Object Technology A Manager’ s Guide Second Edition,” Addison-Wesley, 1997.
この第2版の日本語訳は出版されていない。しかしこの本の最初の版の日本語訳はすばらしい本なので、以下に紹介しておきたい。
デビット A. テイラー著、増永良文監訳、寺島哲史訳、「オブジェクト指向アプローチ – その全貌–」、アジソン・ウェスレイ、1993年。
- [THA12] Richard H. Thayer, Martin Dorfman. “SOFTWARE ENGINEERING ESSENTIALS, Volume I: The Development Process (Volume 1)” IEEE Computer Society, 2012.
- [TOF90] アルビン・トフラー著、徳山二郎訳、「パワーシフト（上、下）」、フジテレビ出版、1990年。
この本の原書は、次のものである。
Alvin Toffler, “Powershift Knowledge, Wealth, and Violence at the Edge of the 21st Century,” Bantam Books, 1990.
- [TUB05] 椿正明著、「名人椿正明が教えるデータモデリングの技 データ中心システム開発原論」、翔泳社、2005年。
- [UME07] 梅田望夫著、「ウェブ時代をゆくーいかに働き、いかに学ぶか」、ちくま新書 687、筑摩書房、2007年。
- [UZAWA13] 鶴澤 仁著、「実践！ 実例で学ぶファンクションポイント法」、(財) 経済調査会、平成25年。
- [WEI71] ジェラルド・M・ワインバーグ著、木村泉他訳、「プログラミングの心理学 または、ハイテクノロジーの人間学」、技術評論社、平成6年。
この本の原書は、次のものである。
Gerald M. Weinberg, “The Psychology of Computer Programming,” Van Nostrand Reinhold Co., 1971.
- [WEI92] G. M. ワインバーグ著、大野とし郎監訳、「ソフトウェア文化を創る 1 ワインバーグのシステム思考法」、共立出版、1994年。
この本の原書は、次のものである。
Gerald M. Weinberg, “Quality Software Management: Volume 1 System Thinking,” Dorset House Publishing, 1992.
- [WIE02] Karl E. Wieggers 著、大久保雅一監訳、「ピアレビュー 高品質ソフトウェア開発のために」、日経 BP ソフトプレス、2004年。
この本の原書は、次のものである。
Karl E. Wieggers, “Peer Review in Software: A Practical Guide,” Addison Wesley Professional, 2002.
- [WIE03] Karl E. Wieggers 著、渡部洋子監訳、「ソフトウェア要求 顧客が望むシステムとは」、日経 BP ソフトプレス、2003年。
この本の原書は、次のものである。
Karl E. Wieggers, “Software Requirements, Second Edition,” Microsoft Press, 2003.
- [WIR90] Rebecca Wirfs-Brock, Brian Wilkerson, Lauren Wiener, “Designing Object-Oriented Software,” Prentice Hall, 1990.

- [Wik001] 「ユーザビリティ」、<https://ja.wikipedia.org/wiki/ユーザビリティ>. (確認日：2016年(平成28年)4月21日)
- [WIK08a] "Benjamin Gompertz", Wikipedia より
この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日：2017年(平成29年)1月26日)。
http://en.wikipedia.org/wiki/Benjamin_Gompertz
- [WIK08b] 「ロジスティック式」、ウィキペディアより
この資料は、以下の URL からダウンロードできる (確認日：2017年(平成29年)1月26日)。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%83%E3%82%AF%E5%BC%8F>
- [Wik291] 「C言語」、<http://ja.wikipedia.org/wiki/C%E8%A8%80%E8%AA%9E>
(確認日：2014年(平成26年)6月12日)。
- [Wik292] 「GNU General Public License」、<http://ja.wikipedia.org/wiki/GPL>
(確認日：2014年(平成26年)6月12日)。
- [Wik293] 「Linux」、<http://ja.wikipedia.org/wiki/Linux>
(確認日：2014年(平成26年)6月12日)。
- [Wiki214] 「企業資源計画」、<https://ja.wikipedia.org/wiki/企業資源計画>
(確認日：2017年(平成29年)2月14日)。
- [Wiki300] 「ビジネスモデル」、<https://ja.wikipedia.org/wiki/ビジネスモデル>
(確認日：2016年(平成28年)6月26日)。
- [Wiki301] 「形式手法」、<https://ja.wikipedia.org/wiki/形式手法>
(確認日：2016年(平成28年)8月8日)。
- [Wiki1115] 「アーンド・バリュー・マネジメント」より。このページは、次の URL からダウンロードできる。(確認日：2016年(平成28年)11月15日)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/アーンド・バリュー・マネジメント>
- [YAM07] 山田茂、福島利彦著、「品質指向ソフトウェアマネジメント 高品質ソフトウェア開発のためのプロジェクトマネジメント」、森北出版、2007年。
- [YOU75] Edward Yourdon, Larry Constantine, "Structured Design Fundamentals of Discipline of Computer Program and System Design," Prentice-Hall, 1975.
- [YOU89a] E.ヨードン著、国友義久、千田正彦訳、「ソフトウェアの構造化ウォークスルー [第2版]」、近代科学社、1991年。
この本の原書は、以下のものである。
Edward Yourdon, "Structured Walk-Throughs," Yourdon Press, 1989.
- [YOU89b] Edward Yourdon, "Modern Structured Analysis," **Yourdon Press**, 1989.
- [YOU92] E.ヨードン著、松原友夫訳、「ソフトウェア管理の落とし穴：アメリカの事例に学ぶ」、トッパン、1993年。
この本の原書は、以下のものである。
Edward Yourdon, "Decline and Fall of the American Programmer," Yourdon Press, 1992.
- [YOU94] E. ヨードン著、松原友夫訳、「オブジェクト指向システム設計 新たな方法論の統合を提唱する」、プレントニスホール・トッパン、1995年。
この本の原書は、以下のものである。

Edward Yourdon, “Object Oriented Systems Design An Integrated Approach,” Prentice Hall, 1994.

[YOU97] E.ヨードン著、松原友夫訳、「デスマーチ：なぜソフトウェア・プロジェクトは混乱するのか」、トッパン、1998年.

この本の原書は、以下のものである。

Edward Yourdon, “Death March The Complete Software Developer’s Guide to Surviving “Mission Impossible” Projects,” Prentice Hall, 1997.

またこの本は第2版が発行されている。第2版は、以下のものである。

エドワード・ヨードン著、松原友夫／山浦恒央訳、「デスマーチ 第2版：ソフトウェア開発プロジェクトはなぜ混乱するのか」、日経BP社、2006年.

さらに、この本の原書は以下のものである。

Edward Yourdon, “Death March 2nd Edition,” Pearson Education, 2004.

